

2026年度 酪農学研究科 修士課程 第1期入学試験問題
(必修： 土壤植物栄養学)

【出題の意図】

問題1

わが国は土壤酸性化の問題が顕在化しやすい。自然生態系を改変した耕地における、土壤酸性化の原因を理解し、酸性化が作物生育にどのような影響を与えるかを知っておくことは、農業生産にとって基本的事項で大切です。そのような知識や理解を持っているか問いました。

問題2

土壤の団粒構造が持つ機能は自然生態系でも耕地でも極めて重要です。土壤団粒がどのように形成されるか、土壤団粒にはどのような特徴があるのか、あるいは、土壤団粒の維持にはどのようなことが必要かといった知識や理解を持っているかを問いました。

問題3

みどりの食料システム戦略の中でも堆肥の適正使用が推奨されていますが、現実問題、堆肥はどうしても過剰施用が問題になってきます。その傾向に対する問題意識と、利用の実践的アプローチは、本学の大学院生には身につけていてほしいところです。そのことを問いました。

問題4

① 農業の問題は、地球環境問題と深いつながりがあります。これからの農や食に関わる人材には、その知識が不可欠です。その理解度を問いました。

② 上の問題に関連して、実践的なアプローチに関する理解も重要です。いずれも持続的で環境低負荷型の農と食の推進には参考になる事象ですから、その理解は重要です。そのことを問いました。